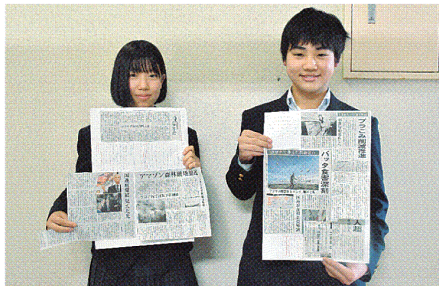


作った「新聞レポート」を手にする
森美音さん（左）と藤山悠真さん



平成中学校(薩摩川内市)

多面的な視点を育む

読解力向上を目指し、国語の時間に全学年で取り組んだ。NIE担当の宮内弘毅教諭(45)は「家庭での新聞購読率が低く、正直不安だった」と語るが、意外にも食い入るように記事を読む姿が目立ったという。

昨年11月は複数の新聞から記事3本を選んで、考えを書く「新聞レポート」に取り組んだ。新型コロナウイルスの食料支援に関するコラムを選んだ森美音さん(2年)は「テレビだけでは分からない考えた。」(田畑細織)

朝の会での1分間スピーチのネタ探しに読む生徒も多かった。「情報が簡単に手に入る時代だが、全て正しいわけではないと学んでほしい」と宮内教諭。2年

目には見えない情報が得られた。海洋プラスチックごみ問題を取り上げた記事を選んだ藤山悠真さん(2年)は「新聞はいろいろな視点から見られるように考えられていると感じた」と話した。

調べ学習の成果を発表する永山夏愁さん



指宿高校(指宿市)

社会の課題解決探る

興味を持ったテーマについて調べ学習を進める1、2年生の「総合的な探求の時間」で新聞を活用する。2年生は、文系の「経済・産業」から理系の「環境工学」まで6分野のグループに分かれ、関係する新聞記事を持ち回りでスクラップ帳に貼ってきた。感想やまとめを書き込み、テーマ探しの参考にした。

2月上旬、調べた内容について発表会があった。田原迫麻美さんは、関心を持

つ「持続可能な開発目標(SDGs)」の中から身近な地域に消し焦点を当てて発表。「手間がかかると、人手の少ない過疎地などでは難しいことが分かった」と語る。

担当する島小白合教諭は「社会の課題について教科と結び付けて解決方法を考えるのが狙いで、学習意欲の向上につながっている。今後、地域の役に立つような活動までできれば」と話した。(北村茂之)